

スイゼンジノリから発見「サクラン」

化粧品素材で商品化も

高級食材で「ひび野菜」の一つスイゼンジノリから発見された全く新しい高分子物質「サクラン」。高い保水力のほか、肌を守る膜をつくることが分かり、化粧品などの素材としての売り込みが本格化してきた。

サクランは2006年、北陸先端科学技術大学院大（石川県能美市）の研究グループが、希少なスイゼンジノリを「日本固有の貴重なバイオ資源」と位置付け有効成分を探る中で見つけた。糖の分子が鎖のように複雑に連結した多糖類の一種で、平均分子量は1600万。

ヒアルロン酸以上

最大の特徴は、1gで5〜6リットルの水を吸収する

肌は汗などで覆われているため、化粧品として考える場合、純水より生理食塩水での能力が重視される。生理食塩水で能

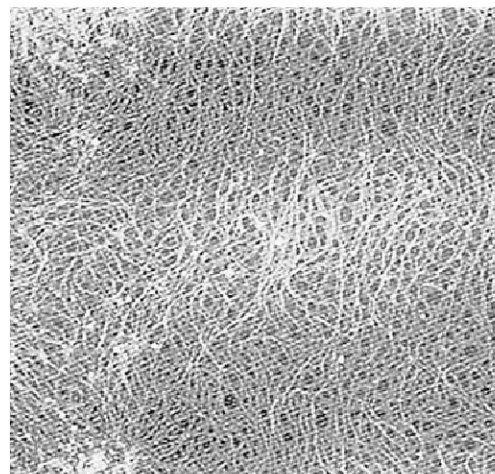
力低下が大きいヒアルロン酸より、化粧品としての能力はサクランが格段に優れていることになり、という。

薄くて均一

一方、同大と連携し、サクランの商品化に取り

保水力高く肌に薄い膜

希少金属 効率的な回収可能



サクランが形成した保護膜の顕微鏡写真（グリーンサイエンス・マテリアル提供）

ミがかゆがらないという結果が得られているという。

量産化にめど

化粧品以外の用途も考えられている。一つは、レアメタル（希少金属）の回収。サクランはインジウムなどが付着するとゼリー状に固まること分かっており、現在はその仕組みを解明中。研究が進めば、工場排水などに含まれるレアメタルの効率的回収に応用できる可能性がある。

組む熊本市のベンチャー企業「グリーンサイエンス・マテリアル」の金子一郎社長（34）は「化粧品素材としてのセルロスポイントは、ほかにもある」と言う。それは、サクランの水溶液を肌に塗ると、複雑な分子の鎖が広がり、極めて薄くて均一な膜を形成することだ。

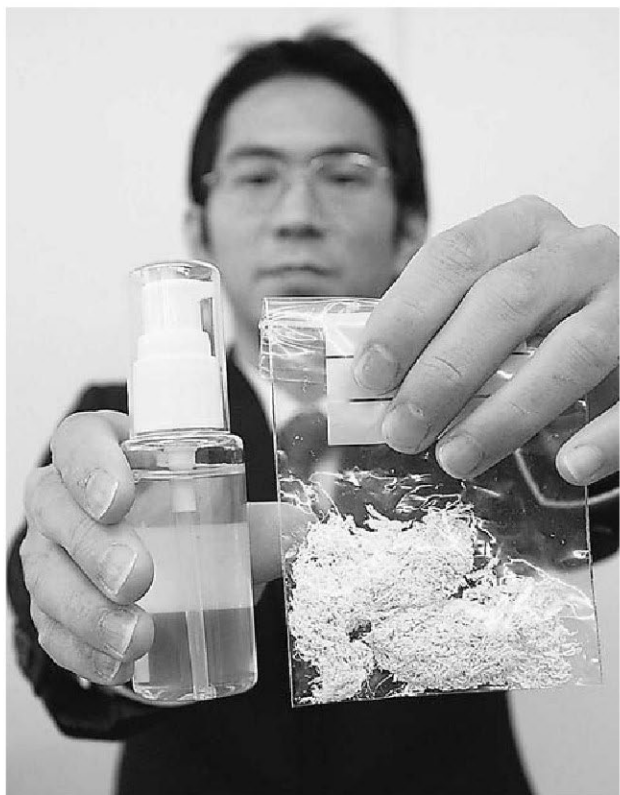
「肌を滑らかにし、外部からの刺激から守ってくれる」と金子社長。ネズミを使った実験で、事前にサクランを塗っておけば、かゆみを誘発する物質を肌に塗ってもネズミ

（久間孝志）

Q&A

Q スイゼンジノリ 単細胞が集まって群体となる日本固有の淡水産ラン藻。1924年、上江津湖（熊本市）の発生地が国の天然記念物に指定されたが、水質悪化や水量減によりほぼ絶滅したとみられている。県内では

嘉島町で1個人が地下水を用いた人工養殖を実施。福岡県朝倉市では、2業者が天然の川を利用した養殖を手掛けており、食用として出荷されている。



スイゼンジノリから抽出した粉末状のサクラン（右）とサクランを溶かした美容液（左）